

四国風景街道協議会

【平成27年度 四国風景街道交流会】を開催しました

●と き : 2015.10.31(土) ●と ころ : 愛媛県上浮穴郡久万高原町内

概 要

今回の交流会は、四国内で活動されているパートナーシップの方々及び行政関係者、一般参加者あわせて総勢117名にて開催しました。

- ・第1部 ●現場見学：御三戸嶽(軍艦岩)、景観伐採実施箇所、古岩屋
- ・第2部 ●シーニックバイウェイ支援センター 原代表理事 による基調講演
テーマ『シーニックバイウェイ北海道の取り組み』
- パートナーシップとの意見交換
- ルートプレス 松本発行人兼編集長 による事例紹介

えひめやまなみ燦々振興協議会会長
久万高原町長 挨拶

現場見学

現場見学では、交流会の舞台となる「えひめ やまなみ燦々 風景街道」のパートナーシップから、風景街道のネーミングの由来やこれまでの活動内容、今後の予定等について紹介いただき、活動拠点である久万高原町の美しい自然に育まれた観光スポット、愛媛県指定名勝や国指定名称、官民が協働して取り組んでいる活動箇所などを見学し、説明を受けました。

◆御三戸嶽(軍艦岩)

御三戸嶽は、昭和46年4月に愛媛県から名勝地として指定されており、優れた観光スポットとして景観の保全に取り組んでいます。三坂峠を源流とする久万川と名峰石鎚山から流れ下る仁淀川(面河川)の合流点にそそり立つ高さ37m、最大幅137m、長さ237mの巨大な三角形の石灰岩です。頂上に樹木が茂り、軍艦のように見えることから「軍艦岩」とも呼ばれ、太陽光線と淵の水色に呼応して岩肌の色が一日に七変化するといわれることから「七面鳥岩」とも呼ばれています。



御三戸嶽の見学状況

◆景観伐採実施箇所(御三戸地区)

御三戸地区は道路が川に並行し、道路から見える川の眺めが非常に美しい地域ですが、竹や雑木などが繁殖して美観が損なわれていました。そこで、かつての美しい景観を取り戻すため、平成26年度から町内ボランティアの協力も得て官民協働による景観伐採に取り組んでいます。



伐採前の状況(平成26年度)



伐採状況(平成26年度)



伐採後の状況(平成27年度)

◆古岩屋

古岩屋は、昭和19年に国から名勝地として指定されており、遊歩道や植樹などの景観整備に取り組んでいます。直瀬川の兩岸とその支流に礫岩峰が林立する一帯が古岩屋であり、岩峰をつくる礫岩層が浸食されて現在の岩峰が形成されました。岩屋の地名は岩峰にできた岩窟によるものとされ、この穴の状況から古岩屋と呼ばれるようになったとも言われています。青空にそびえ立つ雄大な姿は全国的にも珍しく、太古の神秘とそれが織りなす芸術の偉大さを感じさせてくれます。



古岩屋の見学状況

基調講演

第2部では、「シーニックバイウェイ北海道の取り組み～シーニックバイウェイ支援センターの活動を中心として～」と題して、一般社団法人シーニックバイウェイ支援センターの原代表理事に基調講演をいただきました。

講演では、はじめに「シーニックバイウェイ北海道」が掲げる目標「交流人口の拡大、地域産業の振興、地域における雇用拡大」に向け、「みち」をきっかけとして、地域の方々が主役となり、行政や企業などと連携しながら広域的に「美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力ある観光空間づくり」に取り組むことで、競争力のある美しく個性的な北海道を実現することであるとの説明がありました。



次に、シーニックバイウェイ北海道における地域協働の先進事例について紹介いただき、各ルートの運営方法などを詳しく説明していただきました。

シーニックバイウェイ北海道の各ルートには、ルート全体を統括する人材として「ルートコーディネーター」を配置し、地域住民、国の出先機関、地方公共団体と調整しながら各団体の活動を支援し、地域と行政を「つなぐ役目」を果たしています。

具体的な取り組みのひとつとして実施している「ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト」は、各ルートが毎年行った活動内容を審査して、その中からベストプロジェクトを選んでいるものであり、中には地域の方とアーティストが協働で実施し、10年以上続いているものもあるとのことでした。

これらのように、地域住民とタイアップしたイベント等により地域おこしを行うこと、各団体が自立して運営できる仕組みづくりが重要であるということ具体的な事例を交えながら説明していただきました。



意見交換

継続的な活動にあたって、パートナーシップは「人材育成」、「資金調達」、「広報活動」といった共通の課題を抱えており、シーニックバイウェイ北海道の取り組み事例を参考にパートナーシップとの意見交換を行いました。

会場からは、助成金制度を活用した好事例、活動団体が交流・連携をうまく取っている事例などについて質問があり、広域的エリア(隣り合ったルート)が連携して実施しているイベントを例にアドバイスがありました。

また、より多くの方に参加してもらうための効果的な広報活動についても質問があり、イベントに参加してもらう方法と同時にどうやって効果を得るかということが大切であるとのアドバイスがありました。

このほか、沿線の植栽・清掃など美化活動に関する取り組み事例の紹介もあり、会場と活発な意見が交わされました。



事例紹介

道21世紀新聞ルートプレスの松本発行人兼編集長より、道の駅の取材を通して行ってきた日本風景街道の広報について事例紹介をいただきました。

ルートプレスは、平成16年10月に発生した新潟県中越地震の際、道の駅が避難所になるなど、救援・復旧の防災拠点となることを伝えたいとの思いが発行の大きなきっかけとなりました。日本風景街道の制度が動き始めた平成18年以降は、各号に日本風景街道の記事を掲載していただいています。

現在、全国に日本風景街道は136ルート、道の駅は1,059箇所が登録されており、道の駅と日本風景街道との連携がさらに深まるよう、日本風景街道の活動紹介を継続し、地域活性化に寄与していきたいとの意見をいただきました。



おわりに

本交流会は、現場見学を皮切りに、シーニックバイウェイの先進事例を交えた基調講演、パートナーシップとの意見交換、ルートプレスの事例紹介というスケジュールで進めましたが、参加者の皆様からは活発な意見が出されるなど、地域の魅力向上に真剣に取り組む様子を拝見し、大変な熱意を感じました。

今後、事務局としても、各パートナーシップの方々との交流や意見を伺う場を設け、風景街道のさらなる発展に努めてまいりますので皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

このたびは、遠方にもかかわらず、多数の方々にご参加頂けたことに御礼申し上げます。



お問い合わせ

● 四国風景街道協議会

国土交通省 四国地方整備局 道路部 地域道路課内

● TEL 087-811-8323 ● FAX 087-811-8421 ● mail skr-shikoku-fukeikaido@mlit.go.jp